

えんがわ通信

「えんがわ」という名前には、人と人とのつながりが生まれ、「縁」が「輪」のようになって広がってほしいという願いが込められています。

第13号 2013年1月
発行 * 一般社団法人パーソナルサポートセンター
就労支援事業部
住所 / 仙台市青葉区二日町6-6 シャンポール青葉201
電話 / 022-395-6258
WEB / http://www.personal-support.org/

被災者の就労支援の場 目指す

青葉区立町にカフェオープン

PSC

被災者の女性の就労支援の一環で、一般社団法人「パーソナルサポートセンター」(青葉区二日町・略称PSC)は昨年12月25日、飲食店「Café Quône」(カフェクオーネ)を青葉区立町にオープンさせた。

店名は、ラテン語と英語を合わせた造語。女性が子育てをしながら、働くことができる場を提供するとともに、多くの人に、「食」を楽しんでほしいという願いが込められている。



青葉区立町にオープンした「Café Quône (カフェクオーネ)」

も提供している。カフェの立ち上げからかわり、現在、スタッフの指導役を担っているPSCの後藤美枝さんは「子育てなどで短時間しか働くことができない人の就労の場を確保する

とともに、就労が困難な人がカフェで訓練を通じて自信を取り戻し、再び働くことができるよう支援していきたい」と話す。店は、内閣府の「復興支援型地域社会雇用創造

事業」を活用。PSCの女性4人で組織する被災者就労促進チームが昨年9月から、視察や研修を行いながら、開店準備を進めてきた。店では現在、仙台市内

の仮設住宅に入居している被災者を対象に、スタッフを募集している。問い合わせは「Café Quône(カフェクオーネ)022(797)4535(担当・今野)まで。

「JUNJUN」が東京・札幌の子どもたちに

東証 親子経済教室

太白区あすと長町のコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」で被災者が製作した羊毛マスコット「ころころゆきだるま」約150個が、東京都と北海道の小・中学生にプレゼントされ、子どもたちの人気を集めた。

配布は、被災者支援に取り組み東京証券取引所(東京都中央区・東証)の呼びかけで実現した。東証が小・中学生を対象に2004年から取り組んでいる金融・経済学習

プログラム「シェア先生の親子経済教室」で昨年12月から、配布を開始。東京都内と北海道札幌市の小中学生らに約150個、配られた。

そのうち、札幌証券取引所で1月14、15の両日開催された教室では、株価の変動等を学んだ



「ころころゆきだるま」が配られた親子経済教室=札幌市内

後、参加賞として「ころころゆきだるま」が配られた。子どもたちは「かわいい」などと喜び、「大切にします」「がんばってほしい」との声も上がった。

た。教室を開催した担当者には「被災者のみなさんが作った「ころころゆきだるま」を多くの子どもたちに知ってもらうことで、復興に向けた意欲が根付いてくれると信じている」と話した。

東証では昨年から親子経済教室のほか、「ころころゆきだるま」を見学施設「東証 Arrows」内で被災地支援商品として販売している。

茶話会参加者募集

セカンドハンド仙台

若林区河原町のコミュニティショップ「セカンドハンド仙台」は、毎月15日に同店で開催している茶話会の参加者を募集している。茶話会は、地域住民との交流や被災者の居場所づくりが目的で、昨年11月から開催している。2月は15日の午前10時から正午まで開く予定。

市内の仮設住宅で暮らす同店の女性スタッフ(60)は「知り合いが増えるよい機会なので、ぜひ立ち寄ってほしい」と話している。問い合わせは「セカンドハンド仙台」022(721)1195まで。

明日へつなぐ 仙台市 生活再建支援員

佐々木 重子さん(64)



被災された方々が生活再建に向けて進むことができるよう応援したい。

長瀬 義明さん(64)



仙台市の委託で、同市シルバー人材センターに登録する18人が昨年3月から「生活再建支援員」として仮設住宅などを回り、被災された方々の相談活動を展開している。日々の活動を通じて、どんなことを感じているのか。2人に話を聞いた。

◇ 普段はどのような活動をしているのでしょうか? 佐々木さん 被災された方々に、住まいの再建をどのように考えているのかなどのお話を聞いています。その中で、健康状態や困りごとなどの相談も聞かれています。

長瀬さん アポイントを取って訪問するのは、一日3件、アポイントなしの訪問は8〜10件になることもあります。被災された方々の様子は、以前に比べると落ち着いてきたと思います。が、住宅再建や健康問題などの悩みや不安はまだまだあります。

長瀬さん 精神的にまわっている人もいます。精神的なものにとどまらず、健康も心配です。市には65歳以上の一人暮らしの人を対象にした支援システム(※)があります。活用してもらえればと思います。

※仙台市ひとり暮らし高齢者等生活支援システム。ひとり暮らしの高齢者を対象に、応急仮設住宅内に緊急通報装置などを設置するほか、外出時の緊急通報や日常会話のコールセンターが利用できる専用の携帯電話を貸し出す支援システム。問い合わせは、仙台市生活再建支援室022(22)8579まで。

このコーナーでは、太白区あすと長町のコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」で行われているイベントなどに参加し、活躍している人たちを紹介しています。

えんがわの輪 ①



松本 茂さん(62)

人との出会い新鮮

毎月送られてくる「えんがわ通信」を見て、昨年6月に市のお知らせなどを封入する作業に参加したのがきっかけで、「えんがわ」の活動に参加するようになりました。

これまで、封入作業のほか、封入物の運搬作業や農業プロジェクトに参加してきました。若い人や主婦など、これまで、出会うことがなかった方々と一緒に働くのは、新鮮ですし、楽しみのなっています。

震災の時は、若林区内で農作業をしていました。目の前まで、波しぶきが押し寄せる中で、軽自動車でも命からがら逃げました。若林区の七郷中学校や若林体育館などで約100日間の避難生活を送った後、いまの場所に住むようになりました。

TOPICS (2月)

就職応援プログラム

就職活動に役立つスキル・知識を学ぶセミナーと相談員による個別相談です。

■日時：2月7日(木) 10時～17時
セミナー(午前：基礎編、午後：実践編)、
2月8日(金) 10時～18時
個別相談(お一人50分程度)
※ご希望に応じて基礎編・実践編のどちらかのみ、
または両方のご参加が可能です。

■場所：AERビル6階 情報・産業プラザ

■対象：求職中の方/学生

■定員：30名

■申込締切：2月4日(月) 必着

就業や進路に関する個別相談

専門の相談員による、就職や進路・キャリア等に関する個別相談を開催します。(就職のあつせんではありません)

■日時：2月20日(水) 10時～18時(お一人50分)

■場所：AERビル6階 情報・産業プラザ

■対象：①学生・求職中の方(年齢不問)、②在職者(30代まで)

■定員：28名

■申込締切：2月13日(水) 必着

◎申込方法：郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・求職中/在職中のいずれかを記入し、郵便・FAX・Eメールでお申込み下さい。ご希望の相談時間がある場合はご明記下さい。締切後に応募者全員に決定通知をお送りします。

◎お問合せ先：仙台市産業振興事業団

〒980-6107 仙台市青葉区中央1-3-1 AER7階

TEL: 022-724-1212, FAX: 022-715-8205

Eメール: koyoushien@siip.city.sendai.jp

のびすく仙台

◎利用できる人 主に乳幼児とその家族

◎住所 仙台市青葉区中央2丁目10番24号
(仙台市ガス局ショールーム3階)

◎問い合わせ TEL: 022-726-6181
FAX: 022-214-5071

パパサロン「ベビーマッサージ」受付中

パパがベビーマッサージに挑戦!
スキンシップにいいですよ。

■日時：2月10日(日) 10:00～11:00

■講師：齋藤勇介さん(保育士)

■定員：10組

■対象：0歳のお子さんとパパ(ママも一緒可)

■持ち物：バスタオル

託児付「ヨガストレッチ講座」1/24～申込開始

寒さで固くなったからだをほぐしませんか?
子どもと離れて、リフレッシュ!

■日時：2月14日(木) 10:00～11:00

■講師：石井智美さん(インストラクター)

■定員：10名

※動きやすい服装でお越しください。

託児について

■場所：のびすく仙台託児室

■対象：生後6カ月から未就学児

■定員：10名

■託児料：500円(一人につき)

2月生まれのお誕生会 申込不要

お誕生日のお祝いをします。読み聞かせや、歌遊びもあります。最後はみんなで一緒に記念撮影!

■日時：2月22日(金) 10:30～11:00

■対象：1, 2, 3歳のお子さんと保護者

ハローワーク相談会

ハローワーク仙台的「就職支援ナビゲーター」が、被災者の就職に関するさまざまな相談をお受けいたします。専門の担当者に相談できる良い機会ですので、悩みがある方は、この機会にぜひ足をお運び下さい。相談は事前予約が必要です。

■日時：2月8日(金)・22日(金)
13:30～16:00

■場所：就労支援相談センター
「わっくわあく」

※駐車場はございません。
公共交通機関をご利用ください。

◎お申込み・お問合せ

パーソナルサポートセンター

就労支援事業部

TEL: 022-395-6323



えんがわ通信 求人コーナー

このコーナーでは、就労支援相談センター「わっくわあく」(PSC就労支援事業部)と提携する特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」が、みなさまにさまざまな求人情報をお届けします。

※特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」無料職業紹介事業(許可番号04-ム-300010)

社会福祉法人 やまとみらい福祉会

募集職種/介護職員
仕事内容/介護業務や高齢者への生活援助、身体介護、その他ユニットケアに関して付随する業務

雇用形態/正社員以外(正社員登用制度あり)
給与/月給128,000~154,800円
定期職務手当 5,000円
夜勤手当 4,000円/回

勤務地/仙台市泉区
勤務時間/1)7:00～16:00
2)9:00～18:00
3)12:00～21:00
4)21:15～7:15
シフト制(夜勤は月4~5回程度)

休日・休暇/週休二日制(シフト制)
加入保険/雇用・労災・健康・厚生、退職金制度あり(勤続3年以上)
免許・資格/ホームヘルパー2級以上あれば尚可
介護福祉士あれば尚可

合同会社 東北六県ふるさと物産(ごはんや/べんとうや)

募集職種/調理補助・洗い場他
仕事内容/食堂の調理補助・洗い、弁当の盛り付け・受注等
電話対応、事務軽作業

雇用形態/パート
給与/時間給 700円

勤務地/仙台市泉区泉中央・仙台市泉区将監

勤務時間/6:00～22:00の間で、4～6時間(応相談)

休日・休暇/週2、3日以上可
希望相談

加入保険/雇用(週20時間以上の場合)労災
免許・資格/不問

ミニストップ 仙台泉中央1丁目店

募集職種/レジ・接客・品出し等
仕事内容/レジ・接客・品出し等

雇用形態/正社員
給与/時間給 710～730円

勤務地/仙台市泉区泉中央1丁目
勤務時間/1)5:00～14:00
2)14:00～22:00
休憩時間 60分

休日・休暇/週休2日(当社カレンダーによる)

加入保険/雇用・労災
免許・資格/不問

※勤務時間1)、2)各1名ずつの募集となります。

株式会社 ビルキャスト

募集職種/駐車場の運用・管理
仕事内容/入出庫時の誘導、立駐入出庫操作、清掃、他

雇用形態/契約
給与/時間給 850円(22時以降は25%増)

勤務地/仙台市宮城野区榴岡
勤務時間/1)6:30～15:00
2)14:30～23:00のシフト

休日・休暇/月7～8日(シフト制)
加入保険/雇用・労災・健康・厚生
免許・資格/普通自動車運転免許

株式会社 ビルキャスト

募集職種/営業・管理・現場対応
仕事内容/当社請負社員の指導・管理

雇用形態/契約
給与/時間給 1,000円

勤務地/仙台市宮城野区宮城野
勤務時間/8:00～17:00

休日・休暇/週休2日(シフト制)

加入保険/雇用・労災・健康・厚生
免許・資格/PCワード・エクセル他
普通自動車運転免許(AT限定可)

株式会社 ささま

募集職種/かまぼこ製造・包装
仕事内容/練り製品・笹かまぼこ・揚げかまぼこ等の製造・包装

雇用形態/正社員
給与/時間給 700～730円

勤務地/名取市植松
勤務時間/8:00～17:00

休日・休暇/週休2日(日ほかシフト)

加入保険/雇用・労災・健康・厚生
免許・資格/普通自動車免許(AT限定可)

※求人は1月10日現在のものです。求人募集が終了している場合がございますので、あらかじめご了承ください。

その他にも求人数多数有り。求人に関する問い合わせ、連絡先は 022-395-6364 (ワンファミリー仙台求人担当)

就職のお悩み相談は、就労支援相談センター「わっくわあく」へ。電話 022-395-6323

封入手伝い

PSC就労支援事業部は2月20日から3日間実施する「復興定期便」(仙台市からのお知らせ)の封入作業の従事者を募集している。宮城野区に住んでいる被災者が対象。作業は、午前と午後の1日2回行われ参加者には、謝礼として1回あたり2000円分の商品券が支払われる。

締め切りは2月12日。申し込みは、PSC・千葉08(4426)9824まで。

料理教室

「仙台友の会」(太白区)は2月13日に行う料理教室の参加者を募集している。教室は午前10時から開始で、エプロン持参。参加費は200円(実費)で定員は10人となっている。申し込みは仙台友の会・前嶋090(3124)1188、またはPSC・千葉080(4426)9824まで。

「えんがわ」のつぶやき 仕事に求めるものは何ですか?

PSCでは、就労支援相談センター「わっくわあく」の窓口として、生活支援チーム(PSCチーム)のメンバーが相談者とはじめに会うことになっている。

「わっくわあく」が昨年6月に開所してから、PSCチームのメンバーは160人ほどの相談者と会った。相談内容は仕事に関することばかりではなく、家族が抱える問題、健康面の不安、経済的困窮、育児や託児の悩みなどさまざま。年齢は10代から80代まで幅広く、仙台市以外から転入して来た人もいる。

PSCチームでは、一人ひとりの話をじっくりと聞き、必要に応じた支援を心がけている。すぐに仕事ができるような人は就労支援チームにつないで専任のメンバーが適した仕事を探す。一般就労が不安な方には、就労準備チームのプロジェクトの参加を勧めたり、面談を重ねたりすることもある。

なかには、「どんな仕事ができるのかわからない」とか、「なんでもする」と言いながら求人情報を見ると躊躇(ちゅうちゅう)して応募にまで至らない人もいる。そのような場合は話をうかがうだけではなく、PSCチームが作成したオリジナルの「仕事探しの優先順位シート」への記入を促す。

シートは、仕事を探すうえで重要視していることを順番に考え、記入してもらおうもので、「職種が重要」と考える人もいれば、「希望収入を得られれば」という人もいます。「家にもこもりがちになっているので、短時間でも働くことで社会とのつながりを持ってほしい」と希望する人もいます。

その時々で状況やニーズをとらえ適切なサポートをしていく。それが「わっくわあく」の開設当初から私たちが目指していることである。ことしもさらに一人ひとりと丁寧に対応して、よりよい支援をしていきたい。(下)

「えんがわ」イベント情報

「コミュニティ・ワークショップ」